

1. 評価報告概要表

作成日 平成20年8月22日

【評価実施概要】

事業所番号	4071601258
法人名	学校法人 久留米ゼミナール
事業所名	グループホーム 国分つつし苑
所在地 (電話番号)	福岡県久留米市国分町 403- 3 (電話) 0942- 22- 2018

評価機関名	株式会社 アトル		
所在地	福岡市博多区半道橋 2- 2- 51		
訪問調査日	平成20年7月10日	評価確定日	平成20年9月22日

【情報提供票より】(20年 6月 28日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14年 7月 20日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	12 人	常勤	6人, 非常勤 6人, 常勤換算 6.9人

(2) 建物概要

建物形態	併設(単独)	(新築)改築
建物構造	鉄骨 造り	
	1階建ての	1階 ~ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000 円	

(4) 利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	9名	男性	4名	女性	5名
要介護1	0名	要介護2	2名		
要介護3	5名	要介護4	1名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 77.7 歳	最低	61 歳	最高	89 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	宇都内科医院・新古賀病院・毛利歯科医院
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

閑静な住宅街の中に位置し、裏には神社やゲートボール場等もあり、高齢者が落ち着いて生活できる環境にホームがある。玄関に入ってすぐのところに、七夕の飾りが施されており、短冊にそれぞれの利用者のお願い事を書いてつるしていた。季節に応じた行事や装飾にて、ホームの中にも、季節を感じることができるよう工夫されている。またそれぞれの居室にも、昔から使用していたと思われる木製の引き出しや仏壇等が持ち込まれ、自宅の部屋がそのままホームに移ってきているような空間づくりがなされている。職員の中には、レクリエーションが得意な人やインテリアコーディネーターの資格を持つ人等があり、それぞれの得意分野を生かしてもらい、場面づくりを行いながら、職員と利用者が一緒に楽しみながら、毎日の生活を送っていけるホームに向けて、日々研鑽している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価結果において、自分達が納得できる結果とそうではない結果があった。話し合いを行い、納得できたものについては、改善に向けて取り組みを行っている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	まず職員間で話し合い、意見を出し合ったものを管理者がまとめて作成した。自己評価をしながら、改めて気付いたこと等も出てきて、有意義なものとなった。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	自治会長や民生委員、地域包括支援センター職員、利用者家族の代表等が委員となり、2ヶ月に1回開催しており、出席者からは協力的で、活発な意見が出されている。会議ではホームの取り組みや行事等を報告したり、逆に地域の情報を教えてもらって、双方の情報交換の場となっている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法、運営への反映(関連項目:外部8,9)
	意見や不満等、直接言いにくいこともあるかも知れないと考え、玄関に意見箱を設置して対応しているが、今のところ、意見箱を活用した例はない。直接意見を言える場として、今後は家族会を発足していくことを検討しているところである。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	散歩に出掛けた時に近隣の方と挨拶をかわしたり、町内会にも参加しており、各種行事に参加したり、逆に地域の人たちにホームの行事に参加してもらったりしながら、交流を深めている。

2. 評価報告書

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1.理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくっている	個人の尊厳を大切にしようと、利用者がその地域で穏やかに生活できるよう、地域に貢献し愛されるホームを目指すことを盛り込んだ理念を作り上げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	今月の初めに職員全員で話し合いを行い、職員全員で案を出し合った上で理念の見直しを行っており、それぞれ理念の共有は出来ている。また、その理念の実践に向けての取り組みも行っている。		
2.地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に参加しており、各種行事に参加したり、逆に地域の人達にホームの行事に参加してもらったりしながら、交流を深めている。		
3.理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	まず職員間で話し合い、意見を出し合ったものを、管理者がまとめた。昨年の外部評価においての改善点についても話し合いを行い、それぞれ納得した上で改善に向けた取り組みを行っている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会長や民生委員、地域包括支援センターの職員、利用者家族の代表等が委員となり、2ヶ月に1回開催しており、出席者からは協力的で活発な意見が出されている。会議ではホームの取り組みや行事等を報告したり、逆に地域の情報を教えてもらう等、双方の情報交換の場となっている。		

グループホーム 国分つつし苑

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	何か問題があれば、その都度市の窓口へ足を運び、相談を持ちかけている。担当者とのコミュニケーションも取れている。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	前年の評価で改善項目であったが、その後、職員に対して研修を開催したり、資料やパンフレットを配布したりしながら、制度についての知識を深めている。		
4.理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族が面会に来られた際に、暮らしぶりや健康状態についての話しをするようにしている。また、不定期ではあるが、法人全体にて「いきいき便り」を作成して、日々の様子を報告している。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や不満等、直接言いにくいこともあるかもしれないと考え、玄関に意見箱を設置して対応しているが、今のところ、意見箱を活用した例はない。直接意見を言える場として、今後は家族会の発足していくことを検討しているところである。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の事情により時々だが職員の異動があるが、利用者の混乱は特に見られない。ダメージは最小限に抑えられているようである。	○	家族アンケートより、職員の異動が多いといった意見が数件見受けられた。利用者のフォローだけに留まらず、家族に対しても説明や新しい職員の紹介をする機会等を持ち、不安の除去に努めていくことが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援					
11	19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>職員の採用にあたっては、その人の考え方や人間性を重視しており、年齢や性別で採用から排除することはない。</p>		
12	20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>今のところ、特別に時間を設けて人権教育ということには行っていない。今後は管理者会で勉強会を行ったり、高齢者の人権や身体拘束等についての教育に取り組んで行きたいと検討中である。</p>	○	<p>人権教育に向けた研修や勉強会の計画を立て、積極的に取り組んでいくことが望まれる。</p>
13	21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>今のところ研修計画の作成は行っていない。ホームに研修案内が来た際は、その都度職員に対して参加の呼びかけを行っている。</p>	○	<p>職員のスキルや段階に応じて、研修を受講することが出来るように、事前に計画を立てておくことが求められる。また外部研修だけではなく、ホーム内や法人全体での研修を行っていくことも検討されてはどうか。</p>
14	22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域の事業所協議会のグループホーム部会に入会しているが、今のところまだ積極的な活動が行われていない。管理者の知り合いとの個人的な交流はあるが、ホーム全体として、他のグループホームとの交流というのは、特に行われていない状況である。</p>	○	<p>事業所の質の確保のためには、他法人の同業者との交流や連携が不可欠であることを認識し、職員同士の交流や連携を行えるような具体的な取り組みが必要になってくるのではないかと。</p>

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気などに徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前に何度か日帰りで体験入所をしてもらい、雰囲気や環境に慣れてもらうようになっている。それぞれの利用者に合わせ、徐々に馴染んでもらえるように工夫して対応している。</p>		
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり支えあう関係を築いている</p>	<p>本人本位ということとを大事にし、何にでも手を出すのではなく、出来ることはやってもらったり、逆に教えてもらったりしながら、共に支えあう関係を構築している。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
17	35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>それぞれの生き立ちや生活歴、職歴等から、本人がどのようにしたいのか、どのような思いを持っているのか等探りながら、アプローチを行っていくようになっている。</p>		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>計画のたたき台を見ながら、職員が意見を出し合っている。その後修正をかけながら最終的な計画を作成している。また家族の意向も取り入れて作成している。</p>		
19	39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>半年に1回、見直しを行い、新たな計画を作成している。状態に変化が見られた場合には、その都度見直しを行うようになっている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3.多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診の介助や買い物等、本人のその時々々の要望に応じ、臨機応変に対応している。		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の状況に応じて、元々のかかりつけ医への受診介助をすることもあるが、近隣の協力医療機関を受診してもらっているケースもある。利用者と家族が選択された方法にて支援を行っている。		
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の対応に係る指針を定め、入居の際に利用者及びその家族に対して、指針の内容を説明し、同意を得ている。		
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1.その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	常々プライバシーを守ることにっては、注意して心がけている。		
24	54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望を聞きながら、その人その人のペースでやりたいこと、出来ることをやらせてもらうように働きかけを行っている。具体的に希望を言われないことも多いが、会話の中から利用者の心を汲み取ることができるよう工夫している。		

グループホーム 国分つつし苑

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員だけではなく、利用者にも皿拭き等、それぞれが負担にならないよう出来る部分を手伝ってもらっている。ただ、食事については、職員はそれぞれお弁当を持参しており利用者とうもの食べている状況である。	○	利用者と職員が同じ食卓を囲んで、同じものを食べるということが大切である。利用者と一緒に食事を楽しめる環境づくりを前向きに検討することが求められる。
26	59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	風呂は毎日沸かしており利用者の希望時に入浴できるようにしている。入浴を拒否する利用者もいるが、無理強いせず、言葉かけでうまく誘導できるように心がけている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の希望や気持ちを引き出し、その人の特性に合わせて、一人ひとりの力を活かせる場面を提供するようにしている		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気が良い日はほぼ毎日、散歩に出掛けるようにしている。近所の河川敷や公園にも出掛けていき、五感で季節を感じることが出来るように支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中(10時から16時)は一切鍵をかけないようにしており職員による見守りに対応している。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回避難訓練を行っている。その際、夜間を想定した訓練も行い、いざという時に備えている。またホームの隣には学生寮があり万が一の際は学生達の協力も得られる状態になっている。非常用の食料としてカップラーメンやレトルトのおかず等も常備している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	材料は法人本部から持ってきており、おおよそのカロリーの把握はできている。また、食事摂取量をはじめ、必要に応じて水分摂取量をチェック表にまとめており、それぞれの状況の把握に努めている。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには、畳を敷いたコーナーが設けられていたり、ピアノが置かれており、また、装飾品も一般の家庭にあるようなもので揃えられており、心地よく過ごせる空間作りがなされている。		
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの居室には、好みのものや使い慣れた家具、人によっては仏壇等も持ち込まれており、自宅にいる感覚で居心地よく過ごせる空間づくりがなされている。		